

第1回 蒲郡北地区統合小学校開校準備委員会 議事要旨

- 日 時 令和7年1月21日（火）10時～11時
- 場 所 蒲郡西部小学校2階会議室
- 参加者 開校準備委員会委員
大須賀繁弥、奥村那奈、足立泰敏、永井久嗣、河井則夫、尾崎友美、
山本なおみ、原田あい、河井善史、岡田隆志、藤井克枝、竹尾公孝、
近藤愛子
事務局
三浦次七郎、高須伸光、稲吉育美、坂本和浩、井本亮裕

1 あいさつ（教育部長 岡田隆志）

西部小学校と北部小学校は、長年にわたり、地域に根差した教育活動を行っていただいている。両校のよき伝統を引き継いだ学校を築き上げること。そして、すぐれた教育環境を提供し、子供たちに平等かつ、質の高い教育を提供すること、これは私たちの責務であり、使命だと思っている。

学校統合は、大変な取り組みではあるが、この地域の未来を担う子供たちの成長と教育に関わる大変重要なプロジェクトである。そのため、委員の皆さんの知識、経験、そして情熱が不可欠である。多様な視点でアイデアをいただきながら、良い学校を築いていけたらと考えている。

2 委員委嘱（事務局）

- ・委嘱状を渡し、委員委嘱を行った。
- ・委員長・副委員長選任

要綱に基づき委員長の推薦を行った。委員長には大須賀委員が推薦され、全会一致で承認。副委員長には奥村委員を指名した。

3 協議

(1) 組織確認（事務局）

開校準備委員会は設置要綱に基づき、学校代表者、地域の代表者、保護者の代表者、市の執行機関で組織している。新しい学校を作っていくには、学校や行政だけでなく、地域や保護者の方々からの意見が非常に大切であると考えている。ぜひ、忌憚のないご意見をお願いしたい。

【委員からの意見・質問】

【委 員】 令和7年度の総代をやらせていただく予定だが、私が令和8年度に総代を降りたら、次の総代が委員として参加するという認識でいいか。

【事務局】 地域の代表の方としてお願いをさせていただいているので、開校までお願いしたい。しかし、それぞれの方に事情があると思うので、その時にはまた相

談していただきたいと思います。

【委員】 交代するかしないかの結論はいつ頃までに伝えればいいか

【事務局】 令和7年度の最後の開校準備委員会の時に次年度も継続させていただけるかを相談させていただきたい。

(2) 基本方針と開校準備委員会の進め方（事務局）

基本方針として、「ともにつくる新しい学校と地域」、「ここから発信する多様性の尊重」とする。北西部それぞれの学校地域のよさを継承して、北西部地区が1つの地区として、新たな歴史を刻むことができるよう準備を進めていきたい。施設の完成時には、小学校、保育園、公民館、児童クラブ、特別支援学校が併設される予定である。すべての人が学びやすく暮らしやすい地域を作り、蒲郡市が目指す共生社会のシンボルとなるような教育活動を行っていきたい。

開校に向け、西部小、北部小の全教職員が、3つの部会に分かれ、必要な事項について検討し、この委員会で報告し、皆さんのご意見を伺いながら必要事項を決定していく。可能な限り、地域児童の意見集約を行い、地域の方への周知、連絡を行う。

地域との情報共有について、地域説明会を開催する。各年度に1～2回程度、説明会を行う予定である。本年度は、3月に第4回の説明会を合同で行い、令和7年度には2回、令和8年度には、1回程度を予定している。

通信は、北西部地区の回覧版にて周知をしていく。2～3ヶ月に1回程度発行していきたい。

【委員からの意見・質問】

【委員】 意見ということで、聞いていただきたい。新しい学校ができることを地域住民は期待をもっているが、それ以上に大事なことは、その中身がどう変わっていくかであり、新しい教育に変わっていくという雰囲気や情報が、地域に少しずつ届くことを期待する。

学校の名前は、未来志向の名前がつくといいと思う。未来志向とは、地域や、従来の考えに縛られない子供たちの発想を取り込んだ学校名から、新しい教育の動きが感じられるような校名がいいと思っている。

【事務局】 校名については、この後ご意見をいただきたいと考えている。

(3) 開校までのスケジュール確認（事務局）

工程表は3年間を通した大まかなものと各年度に細分化したものがある。工程表は、現状での大まかな予定であり、今後の状況に応じて変更していく。

【委員からの意見・質問】

【委員】 グランドデザインについて7年度の承認というところだが、これは誰がするのか。

【事務局】 グランドデザインは、学校運営協議会で承認されることになっている。準備

委員会委員の皆様にも情報共有して、このグランドデザインをもとに、めざす子どもの姿を共有した上で、これからの委員会でのご意見をいただきたいと思っている。

【委員】 P T Aの組織について、西部小は人数が少ない。この話はやっぱり P T Aの方々が主力になる事案だと思う。北部と西部の P T Aの方の交流みたいなものも、一緒に進めることはどういうふうに考えているか。

【事務局】 北部と西部では P T Aの、活動の違い、組織の違いとかもあるので、学校にお願いしてそちらを調整していくという形になる。

【委員】 P T Aの組織を考えていく上で、地域との繋がり、主に公民館が中心になっていくと思う。ここはぜひ連携を取りたいと考えている。今後、公民館も含めた複合施設になってくことも含めて、そのあたりが進んでいくと、学校としては P T Aの組織を作りやすい。

【委員】 学校組織運営の面で現状を見ると、学校運営協議会という会があり、準備委員会も立ち上がった。組織が、並行して、たくさん出てくる。それを、束ねていくことでかえって、いろいろなロスが出て、落ちがでてくる可能性がある。

P T Aと同じような役割を果たすものは他で可能であるかどうか、検討いただきたい。今ある組織に、保護者代表という形で、位置付けていくこともできる。今の世の中では P T A組織が消えていく流れもある。そういう前提でこの組織自体の有無についても、せっきくの機会なので、検討いただけるといい。

また、生活部会に関わることで、きまりなど、あまり縛りを多くしないほうが良い。現状、制服も自由選択になっていく。こうした流れを頭の片隅に置いていただきたい。

【事務局】 教職員の異動等もあるので、4月以降に具体的なことに関して動けると考えている。そのときに、こちらでいただいたご意見を、部会の中で伝えていく。スムーズな統合を考えたとき、今あるものと新しいもののバランスを見ながら考えたい。皆さんのお知恵をいただきながら、進めていけたらと思っている。

(4) 校名の選定方法（事務局）

先ほども申し上げた通り、現在コミュニティ部会の方がまだ機能できていないため、事務局の方で、選定方法について検討した。

- ・公募を行う。
- ・募集期間は5月下旬から7月中旬
- ・募集資格は蒲郡市に在住の方、中部中学区にゆかりのある方
- ・選定方法
 - ① 応募されたものの中から準備委員会で数点に絞る
 - ② 子どもたち（西部小・北部小）の投票と地域住民の意見収集

- ④ 教育委員会及び議会での議決を受けて決定

事務局としてご意見をいただきたいことがある。

校名決定のスケジュールについて2つの案を提示したい。

- ・必須である校名を令和7年9月までに決めてから、校章・校歌について、時間的に余裕をもって決める。
- ・子どもたちが投票するにあたり、お互いの地域や学校のことを知る活動を1学期に行う。その場合、令和7年12月までに決まれば、校章・校歌についても開校までになんとか間に合う予定である。

こちらの案に対しご意見をいただきたい。また、応募資格、選定方法等についても、あわせてご意見をいただきたい。

【委員からの意見・質問】

- 【委員】 西部地区と北部地区の子供たちの数も違う。西部地区本当に少ないので、できれば保護者にもアンケートも取るのはどうか。それぞれの地区で候補があるといい。

また、校名決定へできるだけ早いほうが良い。何事も名前が決まらない限りは前に進めない。子どもや保護者の意見を早急に聞いたうえで、新しい学校への勢いを盛り上げてこれからの2年を過ごしたほうが良い。

- 【委 員】 少し時間がかかっても、やむを得ない部分はあると思う。今も北部小西部小の交流の場がもたれていたと思うが、子供たちの思いだとか、気持ちだとかを大切にしていけるのであれば、それを続け、お互いのことを少しでも、知ることなどを大切にしていあげたい。その上で、校名を考えていく。後ろにずらすことで、時間的に全く余裕がなくなってしまうというのであれば話は別だが、それほど、不都合が起きないのであれば、じっくりと取り組んでもいいのではないかと。地域・保護者の方のお考えだとか、そういうようなものも踏まえながら、決めたらどうか。

- 【事務局】 夏休み前までの募集だと、ある程度交流をした上で興味が高まった子供も応募できる。9月決定を目指す、GWくらいまでの募集になる。学年の変わり目で、学校も交流を推し進める余裕がない。しかし、地域の方には3月に説明会を行うので、周知がされ、応募いただけると考える。どちらのメリットデメリットもあり、迷っているところでもあるので、ご意見いただいて、校長先生方と相談させていただきたい。

- 【委員】 中部中学校ができたときの1年生だった。そのときに、どういう校名の決め方をしたのか、子供としては知らない。やはり、共通したもの等、お互いを理解しながら考えたい。また、中部中の校歌などは、大変有名な方に作詞作曲をやっていただいている。どうやってお願いしていったのか等参考にされるといい。

- 【事務局】 西浦の義務教育学校が令和 8 年の開校をめざし準備をしている。同じく校名・校章・校歌を新しくしている。そのやり方を参考にした。ただ西浦は 1 つの地区で小中が一緒になるので北西部とは違うこともある。
- 【委員】 小学校、保育園、それから公民館、児童クラブというような教育施設が、一緒の場所に入る構想である。さらに、特別支援が併設される。そういう中で従来の学校というよりか、もっと大きな事であるのかなと思う。学園ととらえることもできる。学園で、下に、何とか小学校というような、ちょっと長いけど、そういったとらえ方もできる。複数の教育施設の連携をどうするのかを考えると、校名もおのずと、それらを取り込んだような校名になってくる。
- あまり慌てると後悔が残る。考える要素がたくさんあるので、じっくり時間をとって、決めていった方がいい。
- 【委員】 両校長先生にお願いしたい。神ノ郷地区は 3 月初めに、23 号バイパスが開通する。2 本のバイパスもあるので、この地区は昔のような山だとかミカンだとか、そういうイメージの地区ではなくなってくると思う。北部も一緒だと思う。その辺も、子供たちに説明してほしい。3 月なってくると、今まで車がバンバン入ってきたのも変わってくると思う。北の玄関口が開かれて、車の流れも変わってくるのではないかな。
- 【委員】 今のお話を伺ってそうだなと思う。子どもたちも知ることによって「そうだな」と思うことがある。やはり、双方の歴史やこれからのことを学んでから、子どもたちの意見を聞かないと、あまりアイデアが出てこない。1 学期の 3 か月は短いかもしれないが、子どもにとっては大きいと思うので、少し校名決定を後ろに伸ばせるのであれば伸ばしていただきたい。
- 【事務局】 いただいた意見を参考に、再度検討を行い、次回の開校準備委員会でお示しする。

4 その他

(1) 通学区域について（事務局）

通学区域に関する説明会を行う。

1 月 25 日：神ノ郷町の門前常会、

26 日：神東及び山本の常会、向山の常会

2 月 1 日：大成 1 の常会

ご意見を伺った上で、通学区域審議会にも意見を伺いながら決定していきたい。通学路に関しては、学区が決まった後、検討していく。

(2) 次回の開校準備委員会について（事務局）

日時については決まり次第すぐにメールにて第一報を送らせていただく。